


場面観察シート 更生園

第1支援グループ かえで寮A棟B棟（女性寮）・
松寮・竹寮・桧寮（男性寮）

コミュニケーション調査実施日：2008年10月23日～24日

場面	グループ	評価コメント
<p>食 事</p> <p>朝 食 8:00～</p> <p>昼 食 11:30～</p> <p>夕 食 18:00～</p>	<p>か え で 寮 A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 昼食は、食堂において合同で食べている。全員一緒ではなく、時間差で食事を始める。必要に応じて職員が介助し、一人あるいはグループで食事をする。会話しながら楽しく食べている利用者もいれば、茶わんを投げて落ち着かない利用者もいる。 ● 食堂の中にやや臭いがこもっているように感じる。また、利用者への配慮からやむを得ないことだが、食堂に装飾は一切なく、音楽等もないので、少々さびしく感じる。色調だけでも、もう少し温かみのあるものにできないだろうか。 ● 入居者は食事内容に概ね満足しているように見えた。 ● 食前・食後の配薬・服薬は、職員が二人体制で行っており、間違いが無いように厳重管理している。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="421 999 908 1364" style="text-align: center;">  <p>食 堂（かえで A 棟・B 棟）</p> </div> <div data-bbox="1043 931 1393 1386" style="text-align: center;">  <p>壁紙は利用者が糞ってところどころ剥がれている（かえで A 棟・B 棟）</p> </div> </div>
	<p>松 竹 桧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事場所、食事時間、献立が決められた中で会話も少なく、食事が終われば退席していく形である。 ● 利用者の意見としては、食事はおいしい・楽しいとの感想を、ヒアリングした全員（3名）から聞き取った。 ● 食事前の消毒および手洗いは全員に行なわれていた。 ● 発作が起きた利用者に対しては、2人の職員が適切にすばやく対応していた。マニュアルが整備され記録もその場でできるように工夫された配置になっていた。 ● 発作等の対応が起きると、その他の利用者へは、大きな声で「今から行きますからね。もうちょっと待っててくださいね」という形で対応していた。食事を終わっていない虚弱な利用者が、首を落として、固定された椅子に数分放置されていた。発作対応を終えた職員の1人が直ぐに首を安定させて話しかけていた。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

<p>排 泄</p>	<p>か え で 寮 A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> • トイレ内は清潔が保たれている。明るさ、温度、臭気等、特に問題は感じられない。 • 利用者の中にはドアを開け放して、職員に見守られながら排泄する人もいる。 • 失禁のため、下着とズボンを脱いだまま廊下を歩いている利用者がいたが、すぐに職員が気づいて対応していた。 		<p>かえで寮内のトイレ</p>
	<p>入 浴</p>	<p>か え で 寮 A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 作業後は順番に入浴を行っている。2～3人ずつ、障がいの度合いに応じて介助を受け、入浴する。 • 浴室は清潔に保たれ、脱衣所の温度も適度に保たれていた。羞恥心への配慮も行われている。 	
	<p>松 竹 桧</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者は順番を待って入浴していた。 • 職員が忙しそうで、ゆっくりと入浴を楽しんでいるとは見られなかった。 		
<p>日 中 活 動</p>	<p>第 1 ・ 2 支 援 グ ル ー プ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 作業室は、利用者の障がいの特性に合わせてさまざまにセッティングされている。 • 合同で行っている部屋や、個別に仕切られている部屋などさまざまである。 • 作業は、やはり利用者に応じて、さまざまに準備され、セットされている。 • しいたけの栽培、手芸なども行われている。 • 陶芸の設備が整っており、かつては陶芸作業も行われていたが、現在は誰も使用していない。 • 各寮の利用者らは、活動を楽しみにしている。 • その利用者にとっては、活動内容が簡単すぎる方もいた。 • 地域移行の計画に沿った日中活動が見受けられなかった。 • 以下の写真は、第1支援グループ・第2支援グループの利用者別作業室と作業内容の一端である。 		

【評価機関】

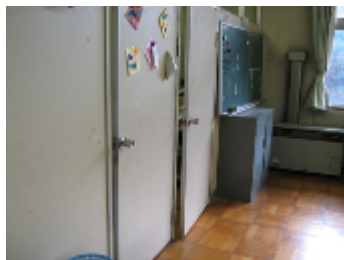
特定非営利活動法人コミュニティケア研究所



作業室



作業室



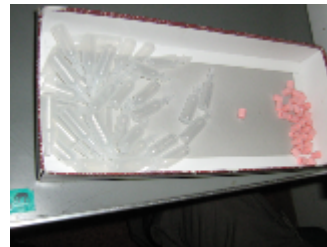
作業室



ビーズ手芸



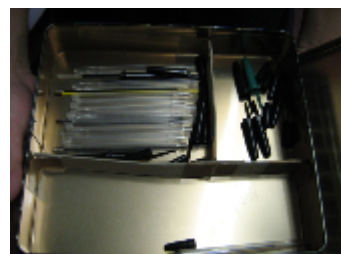
ヤクルト容器に棒を挿す作業



醤油入れに蓋をする作業



箸袋に割り箸を入れる作業





ボールペンにキャップをはめる作業



ボールプール（障がいの重い人向け）



作業をする利用者

<p>余 暇</p> <p>夕方～ 就寝前</p>	<p>か え で 寮 A B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作業終了後、夕食までは思い思いに過ごしている。障がいの重さに応じて過ごし方はそれぞれである。 談話室のテレビの前に集まる人たち、居室でテレビを見たり、音楽を聴いたり、廊下にあるソファに座る人たちなどがある。施錠された、何も家具等が無い居室で、手が届かない位置に設置されたテレビを見る利用者もいる。 利用者同士交流している人もいるが、概ねは一人で過ごしている。職員の数が限られているので、すべての利用者の相手をする事ができない。 ボランティア等を利用し、利用者の余暇をもう少し充実することができないものかと感じた。 夕食後、就寝までも自由行動。談話室でテレビ観賞する人、居室でテレビ観賞する人、音楽を聴く人、廊下のソファでくつろぐ人などさまざまである。 職員は、目の離せない利用者の傍にすることが多く、多くの利用者は一人あるいは仲良し同士で過ごしている。 利用者の話し相手となる人がもう少しいたら、自由時間が楽しくなるのではと感じた。 日々の余暇、事業所全体の行事など、もう少し、楽しみごとがあったらよいのではと思う。作業の充実に対し、余暇の充実のバランスが取れていないと感じる。 	
	<p>松 竹 桧</p>	<ul style="list-style-type: none"> リビングでテレビに向かって座らされているように見える。 見たいテレビ番組を見るというよりは、職員が選んだ番組を全員が見せられている。 自閉症の特性が強く出る利用者は、1人だけ畳の部屋に置かれ、テレビを見ていた。 職員は、安定しているのが良いと考えている。利用者が楽しんでいるかどうかはわからないとのことだった。 社会福祉士の実習で2名の実習生がおり、支援・介助に加わって、利用者と交流していた。 	
	<p>か え で 寮 A B</p>	 <p>利用者の安全に配慮し、一切のものを置いていない居室</p>	 <p>かえで寮の居室のひとつ</p>
	<p>松 竹 桧</p>	<ul style="list-style-type: none"> 桧寮は医療的ケアを必要とする利用者であるため、寮というよりは、病室のようになってしまっている。 2人部屋なので、相手に気を使うと1人の利用者が言っていた。 	

就寝起床	かえで寮 A B	<ul style="list-style-type: none"> 夜勤職員は原則 1 名。利用者は居室にて 9 時ごろから就寝する。職員は適宜見回りを行う。利用者によっては、居室を外から施錠している。 朝は 6 時頃から起床が始まる。職員は起きた順に起床介助をしており、身支度の出来た利用者は、廊下のソファで過ごしたり、談話室や居室で過ごしたりしている。 かえで寮は、外部へ通じるすべてのドアが施錠されている。 朝食の時間が近づくと、利用者はお腹が空くのか、食堂へ通じるドアの前に集まり、ガラス窓から食堂の方を眺めていた。 夜勤職員の人数から難しいとは思われるが、夕食から朝食までの間がかなり開くので、夜にオヤツなどを食べることはできないものかと感じた。 朝食の時間になると、時間差で職員が利用者を食堂に誘導する。 食べ終わると、服薬、歯磨き等を行い、その日のスケジュールに応じて、作業、運動、散歩等を開始する。
	松竹 桧	<ul style="list-style-type: none"> 夜になると、寮の入口を施錠している。
職員の接遇その他	かえで寮 A B	<ul style="list-style-type: none"> 作業の時間と余暇の時間、食事や入浴の時間等がきちんと決まっているため、メリハリのある生活をしていると感じた。 厚介護だったり、高齢化して認知症を発症しているような利用者（他寮）も、ずっと寝たきりにすることはなく、作業時間になると場所を移動して作業を見学している。 作業に加われない重度の障がいを持つ利用者は、ボールプールに入るなどして、その人なりの日中の過ごし方を持っている。 職員のことを、先生と呼ぶ利用者もいた。
	松竹 桧	<ul style="list-style-type: none"> 職員の利用者への対応は丁寧に行われていた。 職員の名前が覚えられない利用者は、職員のことを先生と呼んでいた。 会話の出来る利用者 1 名に聞いたところ、支援計画の内容を知らされていないとのことだった。 会話の出来る利用者 1 名に聞いたところ、施設での生活をよりよくするための意見・要望等を職員から聞かれたことは無いとのことだった。 虚弱者で、意思表示が困難な利用者への接遇が、丁寧とは感じられない一面も見受けられた。（桧寮での食事の提供において）